

2019年度

菅亮平 特別講義 (自作論)

1

絵画と絵画性

日時：2019年6月25日 (火) 17:00~18:30

場所：東京藝術大学上野校舎 絵画棟 油画技法・材料研究室



Endless Gallery
2019年、シングルチャンネルビデオ、2'52"ループ (撮影:菅亮平)

私は 2008 年頃に画家として自身のアーティストのキャリアを開始しました。美術を学び始めた当初から、特に近現代のドイツの画家や写真家たちに関心を持ち、現代社会において変わりゆく現実の在り方を絵画や写真を通して表現した彼らの芸術の在り方に大きな影響を受けました。近年は、美術館やギャラリーの展示室を題材としながら、ドローイング、写真、様々な印刷技術、模型、3DCG、映像、サウンド、建築などの様々な表現領域にまたがって作品制作を行っています。しかし、そのような多様な表現メディアを横断する自身のアプローチは、一步一步、絵画という分野から地続きに展開してきたものです。私は、筆と絵具とキャンバスで制作したイメージだけを絵画として捉えるのではなく、そのメディウムとしての意味の射程はより広く設定されうるべきだと考えています。ここでは、この十年間の自作における「メディウム・スタディー (表現メディアの研究とその実践)」を一つの事例として紹介しながら、「絵画」と「絵画性」について考察する機会を作りたいと思います。